

目的 衣服の仕立てに際しては、あらかじめ布の寸法安定性を高めるために、一般に地直し処理が行われる。絹和服地の地直しでは、洗いによる脱ノリ後、布は緊張状態でスチーム・セットされるが、概して布地の風合いを柔軟にし、光沢を増大させる効果があるようである。本研究では、絹和服地としてのちりめん地をとりあげ、地直しの効果という観点からこの処理によって期待される布の外観特性にまず注目し、検討したので報告する。

方法 絹和服地のうちちりめん地32点を対象に、専門家の手になる湯のしによる地直し処理を行った。この地直し処理前後の布について、収縮、布厚、目付、密度、布目曲がりおよび光沢を測定し、これらの比較検討によって、地直しの効果を追跡した。

結果 地直しは大別して（1）、振り洗いによって、布に付着しているノリが落とされ布が収縮を受ける過程と、（2）、（1）にひきつづいて、布が高温蒸気下で主としてタテ方向に伸長を受ける過程に分けられる。そして、この布の収縮—伸長の程度は、地直しによる最終的消費者風合いを支配する重要な要因となっているようである。

地直し処理の布地にあたる効果は、①、布は（1）、（2）によって収縮—伸長されるが、結局トータルとしてはいずれも布にはほぼ一定量の伸長があたえられる ②、布厚、目付および密度をそれぞれ小さくさせる ③、（2）の過程における布のタテ方向に力を加える引張りの妙によって、潜在していた布のひずみ、布目曲がりを正す ④、布の表面における反射光量が増し光沢を増大させる ことである。この ①～③ を満足させ得ることが地直しであり、その結果、布の光沢が増加してくる処理であると言える。